

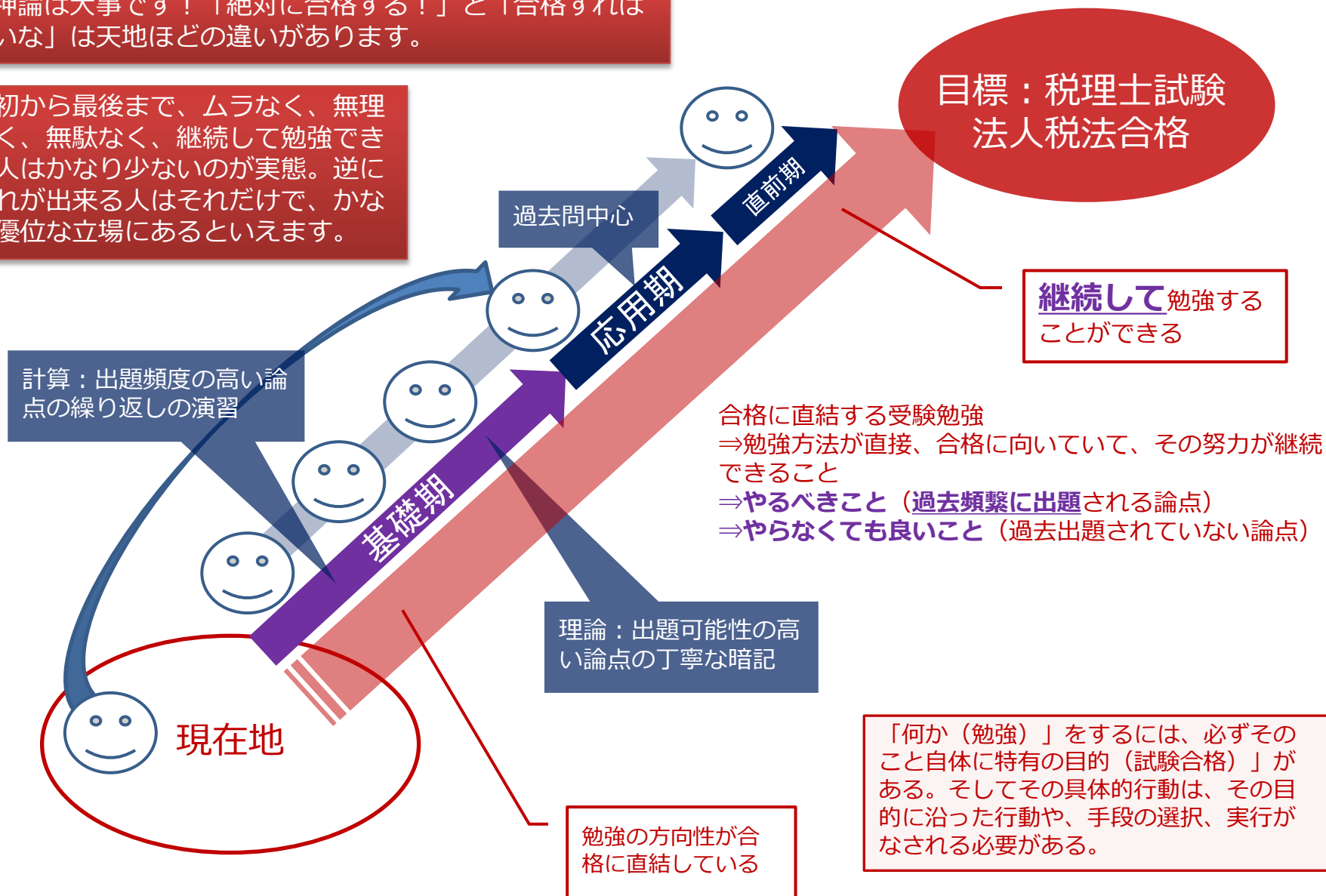
法人税法 基礎期 第2回

(前編、後編)

資格★合格クレアル

精神論は大事です！「絶対に合格する！」と「合格すればいいな」は天地ほどの違いがあります。

最初から最後まで、ムラなく、無理なく、無駄なく、継続して勉強できる人はかなり少ないのが実態。逆にそれが出来る人はそれだけで、かなり優位な立場にあるといえます。



症状：

応用答練以降、答練では**理論は白紙**が多く、**計算問題も**どのように解いていいかわからない。

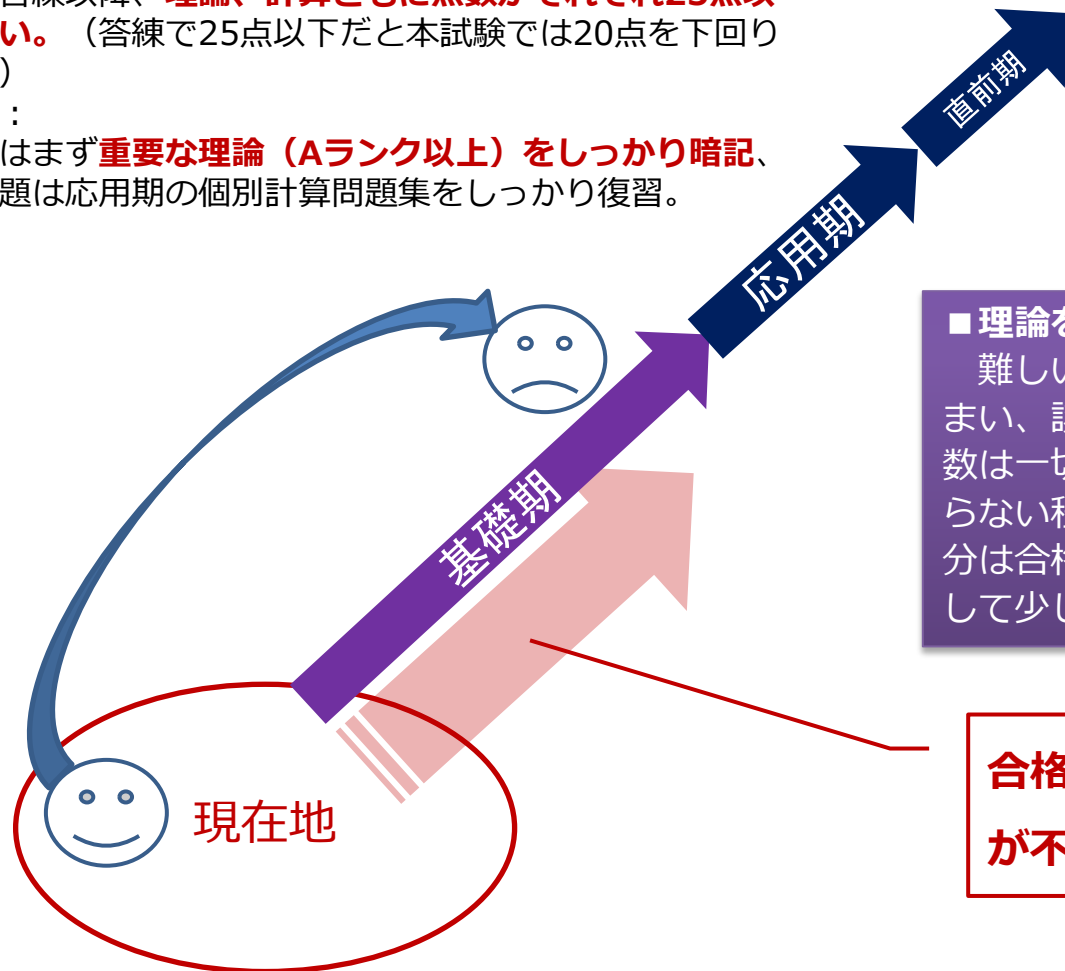
症状の発見方法：

応用答練以降、**理論、計算ともに点数がそれぞれ25点以下が多い**。（答練で25点以下だと本試験では20点を下回ります。）

対処法：

理論はまず**重要な理論（Aランク以上）**をしっかりと暗記、計算問題は応用期の個別計算問題集をしっかりと復習。

目標：税理士試験
法人税法合格



■理論を白紙で提出してしまう受講生に向けて
難しい論点だからといって、簡単に諦めてしまい、該当箇所を白紙で提出してしまうと、点数は一切つかないでしょう。それゆえ、“嘘にならない程度に”何らかの記述をすることで、「自分は合格したい！」という情熱を出題者側に対して少しでもアピールをする姿勢が大切です。

合格に必要な勉強時間
が不足している。

症状：

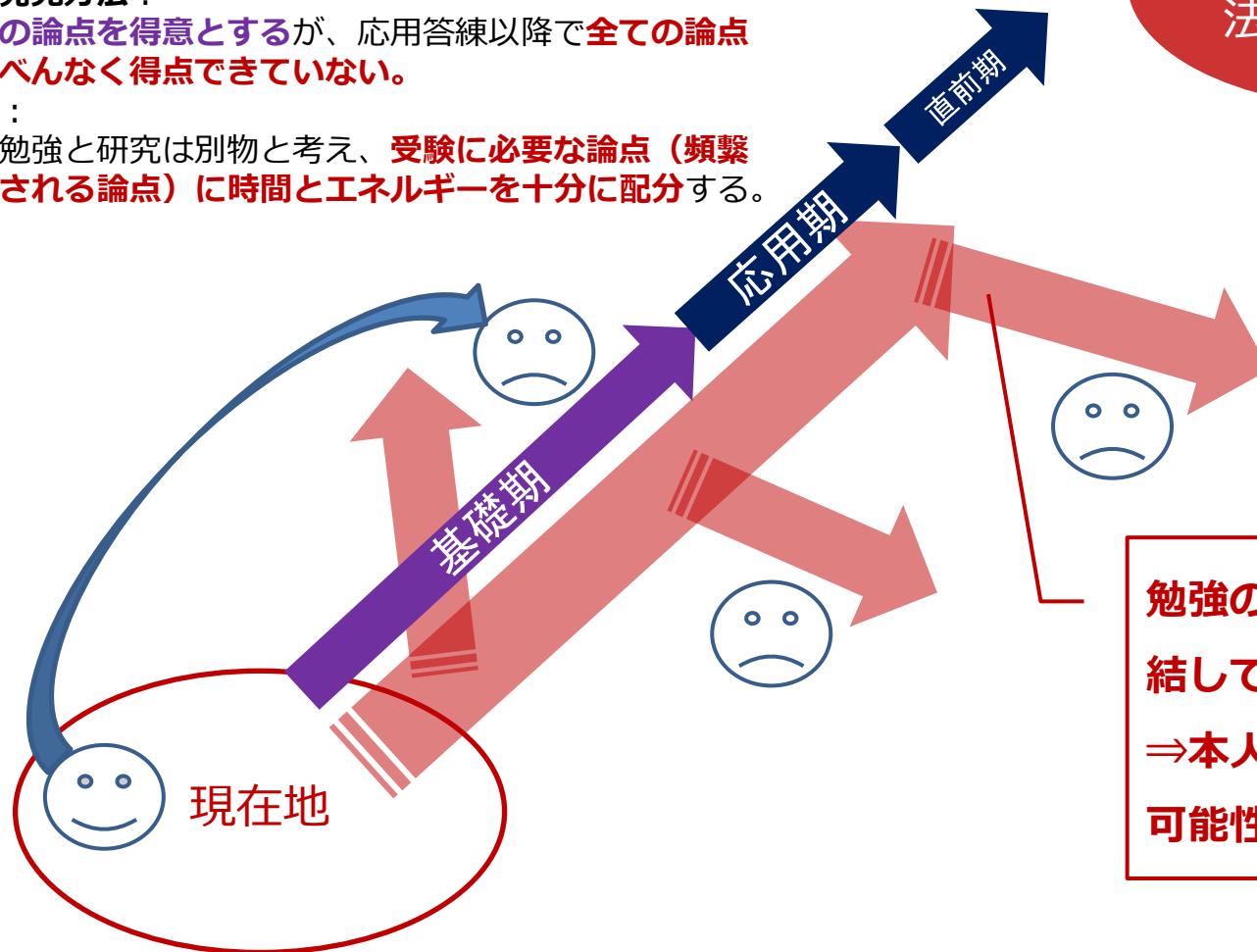
受験勉強とは関係のない論点に拘りが強く、相当細かい論点について質問をする。受験勉強はあくまでも受験勉強。研究者になることが目的ではありません。

症状の発見方法：

特定の論点を得意とするが、応用答練以降で全ての論点をまんべんなく得点できていない。

対処法：

受験勉強と研究は別物と考え、受験に必要な論点（頻繁に出題される論点）に時間とエネルギーを十分に配分する。



勉強の方向性が合格に直結していない。
⇒本人は気づいていない可能性が高い

Web学習サイト 法人税法[よくある質問]／法人税法の学習方法

【質問】

配信されている講義では、テキストで触れていない内容が多くあるように感じます。
テキストにおいて触れていない内容は自学・自習を進める必要がありますか？

【回答】

ご指摘の件、テキストの利用方法につきましては、講義の中でも何度か触れたようにも思います。
つまり、学習の進め方としては、

- ① 配信された講義を視聴して頂く。
- ② 例題を解く、さらに個別計算問題集を解く。
- ③ ②の過程で誤った解答をしてしまった、あるいは解き方が分からない、という場合には、該当箇所のテキストを参照して頂く。
- ④ ③で該当箇所につきテキストを参照したがそれでも分からない、あるいはテキストのどこを参照すれば分からない、という場合には、講師宛に質問を提出してください。

その場合には、どの問題の、どの箇所につき、どうしてそのような解答になるかが、わからないといった情報を出して頂くと、

回答をする側も論点を整理したうえで、回答することが可能ですし、質問する側も具体的にどこが問題となっているのかにつき整理することができます。

テキストは、隅から隅まで熟読する必要はなく、必要に応じて適宜参照されるのが良いかと存じます。そして、上手な活用の仕方としては、比較的大きな付箋を利用して自身で考え、検討したことをメモ書きし、テキストや問題集の該当箇所に貼りつけておくことです。付箋でしたら、該当箇所につき十分な理解できたと思ったら後ではがすこともできます。

質問

他科目との並行学習において、気をつけるべき点について

回答

（一般的基準）受講生皆様の各自に置かれた環境次第なのですが、一般的には、1年1科目ずつ合格科目を取得していくという学習スタイルが順当のように思います。

（実践方法）その場合、本年度は〇〇〇の科目に重点を置き、■■■■の科目については来年度の重点科目に・・・という方が気楽です。

（例外）ただし、結果が逆転するケース、すなわち、本年度に■■■■が合格し、〇〇〇の方が来年度の重点科目となるようなケースもあります。

（講師の経験から）受験生個々人と受験科目との相性（そして運）のようなものもありますが、どちらもというスタンスは、いわゆる「二兎を追う者は一兎をも得ず」となる可能性が高くなるように思います。

⇒ちなみに、私自身は5年かけて5科目合格となりました。

・前提：税理士試験を受験する前に既に日商簿記検定試験の一級に合格しておりました。

1年目：合格科目なし、2年目：所得税法合格(1)、3年目：法人税法合格(2)、4年目：相続税法合格(3)、5年目：簿記論(2)、財務諸表論(2)合格

質問と回答 学習方法一般（他科目との並行学習の場合）

質問

- ・いま簿財アドバンスと並行して法人税法を学習中です。平日は仕事があり、毎月決算があるので時間がなくスケジュールをどうやって組めばいいのかわからなくなってきました。
- ・税法科目として法人税法と相続税法を勉強している場合、どちらかを来年にまわすとするなら、いつ頃判断すべきなのでしょうか。また、来年にまわすとした場合、今年は全く勉強しない方がいいのか、隙間時間に理論を覚えたりした方がいいのでしょうか。
- ・2025年の試験は、簿記論・財務諸表論に全力を注いで、法人税法は2026年に受験予定です。法人税法が全くの入門レベルのため、2025年合格目標の法人税法の講義は、2026年の予習のつもりでスケジュール通りに受講し、理論は2026年合格目標の講義と並行して覚えていこうと考えております。このような2年かけて勉強していく学習方法で問題ないでしょうか。

回答

（一般的基準）

- ・合格率の高い科目、受験生の多い科目、科目間の優先順位、科目との相性

（実践方法）

- ・優先順位が高くない科目の今年の学習方法、基礎期と計算を中心に、

理論は合格したい年度に深く学習

（講師の経験から）

- ・来年度に焦点を合わせた科目であっても、基礎期の内容（特に計算）はしっかり学習

Point: 法人税法の本試験理論問題は覚えるだけでは対処不可。

∴理論の事例問題を解くためにはまず計算の知識（+制度に対する理解）

質問と回答 学習方法一般（基礎期における目標）

質問

- ・基礎期の**ゴールイメージ**(理論、計算)を教えてください
- ・基礎期終了までに何をするか、応用期終了までに何をするか等の**中間目標**を設けて欲しい。

回答

- ・**基礎期終了の段階での学習目標**は、本試験を意識して

①計算は**本試験で頻繁に出題される重要論点**(租税公課、受取配当等(みなし配当を含む)、減価償却(取得価額、普通償却)、役員給与、交際費等、寄附金、貸倒引当金・貸倒損失、所得税額控除、別表五(一))につき、個別計算問題集を利用して何度も復習することです。

また、答練では得点できなかった箇所を中心に復習されると良いかと思います。

②理論は前回本試験の出題予想に上がったが、結果的に出題されなかった**外貨建取引、欠損金、役員給与、繰延資産、確定申告、役員給与、リース取引**といった論点を集中して理解、暗記に努めることです。

- ・**応用期終了の段階での学習目標**も、本試験を意識して、

①計算は、答練(応用答練、特訓答練)で出題された**過去問**を解いて頂くこと。

②理論は、答練(応用答練、特訓答練)で出題された**過去問**につき、自分なりの解き方・パターンを確立して頂くことです。

質問

- ・講義資料について、スライド・補助レジュメ・復習のポイントなど、今はほぼ全てを印刷しファイルしておりますが、どのように使うのが効果的でしょうか？今までの合格された方たちがどのように活用されていたかを知りたいです。
- ・講座の受講のやり方としておすすめの方法を教えてください。

資料と確認テスト、テキストで授業を見ているのですが、印刷物が多く、うまく整理ができないこともあり考え中です。印刷しないで、テキストに書き込むこともやってみましたが、外では難しく再度考え中です。

- ・社会人なので配信予定どおりに受講できないのが悩みです。講義を視聴してから、該当理論の暗記、計算問題をやっている、未視聴の講義が溜まってしまいます。（理論暗記は後回しで講義と計算を先にやった方がよい??）12月～5月が仕事では繁忙期になるので、今の感じだと、講義を消費しきれない気がしてます。

回答

- ・講義資料(PowerPointで作成のスライド、補助レジュメ・復習のポイント)は印刷すると枚数も多く、管理も大変ですので、こちらはダウンロードしてPCに保存しておき、必要に応じてファイルを開き、該当箇所を参照されるだけで良いように思います。
- ・「印刷しないで、テキストに書き込む」の箇所については、比較的大きなサイズの付箋を準備頂き、そこにまずご自身で考えたことを書き込み、それをご自宅に持ち帰ってテキストの該当箇所に貼りつけるというやり方はいかがでしょうか。
- ・社会人で時間が足りないということでしたら、講義を視聴された後、まずは計算に絞り、それを回していくというやり方が良いように思います。

何かに作業をする時間をとられるより、問題を解いたり、なぜそうなるのか、などを考えたりする時間を創ることが大事！

質問

- ・実務をしているわけではないので、聞き慣れない単語も多く、中々計算方法も覚えられません。何度も問題を解いて覚えるしかないと分かっているにもかかわらず、すでに心が折れそうです。
- ・地方公共団体で経理をしているため、法人税の申告書の作成経験がなく、なかなかイメージがわきません。おすすめの参考図書などがあれば教えてください。

回答

- ・聞き慣れない単語については、法人税法の試験に限らず、今まで所属していた業界・会社とは異なるところに転職した場合であっても、起きうる話です。ですが、試験勉強の場合は、知らない単語については、Googleなどで検索すればその大部分はその意味を知ることができます。
- ・何度も問題を解いて覚えるのは確かにその通りなのですが、大切なことは「なぜ、このような計算をするのか？」ということをじっくりと自分なりに考えてみることです。そこで、「そうか！ そういうことか！」と自己納得できれば、次に進むことができます。
- ・ほとんどの受験生の方は法人税の申告書の作成経験がないかと思いますので、そこは決して不利な立場に置かれているわけではありません。
- ・おすすめの参考図書は、スライドで時折参照する「税務大学校講本」です。こちらは国税庁HPからダウンロードすることができます。その他参照する書籍として通達の逐条解説がありますが、値段が高いことと受験に使用するのはわずかですので、おすすめしません。その他の参考図書はオススメしておりません。

質問

・1年の学習期間での合格を目指しています。

そこで、今まで受験生を見てこられて、短期合格する人、苦戦する人の答練の解答の傾向に差を感じたりしますか？

・合格するということに注力して学習を進めて答練を繰り返していきたいと思っています。1年合格を目指す場合に特に優先して意識すること等アドバイスが頂けたらと思います。

回答

・「短期合格する人、苦戦する人の答練の解答の傾向に差」は感じます。それは答練の採点をしていても感じます。試験はある意味、出題者へのプレゼンですので、それを受ける側の立場と同じようなことが言えそうです。抽象的かもしれませんが、出題者の意図に沿った（問うていることに直接、手短に）解答が書ける人、丸暗記ではなく出題した制度に対して正確な理解が伴っていると思える人、が短期合格する人のパターンです。

逆に苦戦する人のパターンは、①問題文の指示をよく読んでいない人（人の話を聞いていない）、②コンパクトにまとめた解答が書けない人（話が長い）、③とにかく答案用紙のスペースに目一杯書き散らかしてしまう人（話にとままりがない）、④文字が極端に小さい人（採点者は老眼です）、④細かいところが気になり過ぎる人などでしょうか。

・特に優先すべきことは、過去問を分析し、次の本試験で出題されそうな項目や論点を意識して学習することです。

第74回（令和6年度）税理士試験の状況・合格者の学習方法（一部）

男性Bさん：受験回数1回（平均学習時間：平日2～3時間，休日7～8時間）

・勉強時間

平日は朝6時くらいに起きて出勤までに0.5時間，夜は8時から10時半頃まで2時間ほど，その他通勤時間や昼休みなどを有効活用しました。机に向かう時間はほとんどの時間を計算に費やしていましたが，通勤時間や昼休み，勉強に疲れた夜遅くなどは理論を勉強していました。朝は計算など頭を使うものを行った方がよいことはわかっていたのですが，どうしても難しかったため朝は理論の暗記に集中しました。休日は演習を中心に朝7時から夜10時くらいまでこまめに休憩を挟みながら勉強しました。

Point：

- ・会社員の方でしたが、朝、通勤時間、昼休み、夜、休日のそれぞれにつき、いつ、何を、どのようにして、どのくらいの時間、勉強するのかをしっかりと計画立てて学習されていたことが分かります。
- ・このような計画的な学習は意外に出来そうで出来ないものです。また、このことを貫徹するということは相当の意思の強さを感じます。

1 「何としても合格するのだ！」という気合と執念が大前提

- 勉強時間は「ある」ものでなく、「作り出す」もの
- 時間があっても勉強時間として活用しなければ意味がない。

2 講義の活用の仕方

- 予習は不要、復習を中心に
- 答練は必ず受ける
 - ・ 学習が遅れがちになると、覚えることを優先するために答練をパスしたくなる心境になるが、これは脱落の典型的パターン
 - ・ 答練は、現時点の実力を試すためだけではなく**以下の効用**がある。
 - ・ 法人税法（税法科目）の学習に慣れるまでは 答練の出題範囲を中心に学習
 - ・ 答練を解くことで、自分の苦手分野、不得意分野を把握し、復習に役立てる。
 - ・ 本番に沿った試験形式（特に時間配分）に慣れる。
 - ・ 失点の発生パターンを早めに把握する。
 - 答練等で早めに失点することで、本番では同じ失敗をしないようにする。
 - そのためには、必ず同じ問題で解きなおしを行う。

苦手分野、不得意分野はテキストや個別計算問題集等を使って早めに克服。

3 合格のための自宅勉強法

スピードを養いつつケアレスミスを防止するためには、基本問題の反復練習が不可欠

(1) 計算問題対策

- 個別計算問題は最低3回（できれば5回）できるまで、かつ、正解数が不正解数を上回るまで何度も解きなめす。
 - ・合格する人は個別計算問題重視の学習（∴法人税の総合計算問題は個別問題の集合体→多くの個別演習問題を解き慣れることで少しでも穴をなくすと同時に、各論点の体系的学習を図る。） 例：令和5年度本試験計算問題では5月末決算の問題が出題

【例】

- ・演習した結果、正答できたら○、計算間違い等ケアレスミスでの不正解は△、理解できていない（考え違いを含む）ための不正解は×印をつける。
- ・○が最低3個つくまで反復練習する。
- ・反復練習の過程で正解と不正解が交互に出る場合は、たとえば3回正解できても不正解数を上回るまでやる。

× ○ △ ○ △ △ △ ○

→ ○は3つだが、×と△の方が多いのであと2回は○がつくまで練習する必要あり

(2) 理論問題対策

- 理論を覚えるのは苦痛であるが、前向きに考えれば苦痛が半減する。
・計算ミスが存在しない理論は、覚えてしまえば安定的な得点源となりうる。
- 理論は書いて覚えるよりも、呪文のように唱えて覚える（私流）
- 内容の理解にも努める（⇒直近の本試験ではここが特に重要！！）
 - ・内容が理解することで覚えやすくなる。

★私流の理論の暗記方法★

理論を主語、要件、結論などの各パーツごとに分解し、その要素ごとに覚える。

（例）

その事業年度の益金の額に算入すべき金額は、**<主語>**
別段の定めがあるものを除き、**<=原則として ⇒ 例外規定（別段の定め）あり>**
下記に掲げるもので **<原則についての例示>**
資本等取引以外の取引に係る収益の額とする。**<結論>**

（１）資産の販売

：

◆法律の文章は必ず一定の法則性がある。税法も同様である。

理論の内容をパーツごとに分解し、その分解したパーツを覚える。

パーツの並び方や構成の仕方などの法則性を考えながら覚えてみる。

（⇒この作業が後々に効いてくる。）

4 その他

- 仕事や学校の関係等で学習が遅れた場合は、とにかく早めに遅れを取り戻す。
 - ・ 少しの遅れならば、取り戻すのはさほど困難ではないが、遅れが大きくなると挽回も難しく、ひいては学習意欲そのものが減退するおそれがある。

それでは、これから来年7月まで一緒にがんばりましょう！！

＜参考＞

人は何かを伝えたいとき、「しかし、」より後の文章にそれが力強く現れます。

－税理士試験にはドラマがある－

「医学部に進学し、あるいは司法試験を受験する。そこにはドラマはない。親が医者だったから医学部に進学し、成績が優秀だったので法学部を目指し、司法試験を受験したのだろう。しかし、税理士試験は違う。多くの人達は、税理士試験に敗者復活戦として挑戦し、そこで勝ち残ってきた人達だ。（太字下線は担当講師）」（注1）

－サラリーマンの世界－

「私が若かった頃、サラリーマンも一つの職業だった。私のように自由業を選ぶか、会社に勤めるか、公務員になるか。それは単なる職業選択の問題だった。しかし、私自身が、定年退職年齢を超えた現在、それは人生の選択だったのだと思う。（太字下線は担当講師）」（注2）

（注1）税理士・公認会計士・弁護士 関根稔著『続々 税理士のための百箇条 －実務と判断の指針－』財経詳報社・142－143頁。

（注2）関根前掲（注1）・46－47頁。